授業時間の効果*

二木美苗#
神戸大学経済学研究科

要旨

本稿は学習指導要領の改訂による授業時間数の変化を用いて、授業時間の効果を認知能力と生徒の学習意欲の両面において検証することを目的とする。推計には、TIMSS 1995, 2003,2007 年の日本の小学校 4 年生のデータを用いて、授業時間と算数・理科のスコア及び学習意欲の関係を分析した。授業時間の変動と結びつく要因の内生性を排除するために教科間のパネルデータを作成し、推計は固定効果モデルを採用した。また、授業と結びつく教員の影響をできる限り排除するために、算数と理科を同一教員 1 名で受け持つサンプルに限定して、教員の固定効果も取り除いた。推計では、授業時間効果の異質性を確認するために、女子生徒や女性教員ダミーの交差項を変数に加え、スコア四分位別サンプルによる推計も行った。推計の結果、全体サンプルにおいては、授業時間とスコアに正の関係が示されたが、学習意欲に対しては、授業時間の増加はマイナスの影響があることが明らかになった。学力層別の推計では、スコアに対する授業時間の効果が下位生徒にはマイナス、上位生徒にはプラス、中位生徒には影響なしと全く異なる結果が示された。また、その係数の大きさから授業時間の増加によって、上位生徒と下位生徒のスコアの格差が広がる可能性も示唆される。

keywords: 授業時間, 学習指導要領, 認知能力, 学習意欲, 学力格差

---

* 本研究は、科学研究費補助金（課題番号：18K12796、代表：二木美苗）の助成を受けたものである。
# 神戸大学経済学研究科研究員　Email : minae.niki@people.kobe-u.ac.jp